取扱説明書

DAYTONA
S39984 ①/⑨

NISSIN ラジアルブレーキマスターシリンダー	適応車種	商品NO.
	Φ22.2 ハンドル専用	39984（バフクリアレバー） 39985（ブラックレバー）

■ ご使用前に必ずご確認ください■

※本商品のご使用前に最終項に記載の URL（保証規定）より保証規定の内容を読み、ご理解のうえご使用ください。
※本商品の使用をもって、本書と保証規定の内容の全てを理解・承諾したものとみなします。本書内の注意事項を守らず使用したことによる事故や損害について、当社では一切の責任を負いません。
※本書は、いつでも取り出して読めるように大切に保管してください。また第三者に譲渡する場合は、必ず本書も併せてお渡しください。

本書では正しい取り付け、取扱方法および点検整備に関する重要な事項を、次のシンボルマークで示しています。

禁止	禁止の行為であることを告げるものです。	実施	行為を強制したり指示する内容を告げるものです。	接触禁止	表記の禁止行為を告げるものです。
法令違反	条件次第では法令違反となることを告げるものです。	その他	その他の警告及び注意を告げるものです。		

⚠警告	要件を満たさず使用しますと、死亡または重傷に至る可能性や第三者の生命や財産を損なう可能性が想定される場合を示してあります。
禁止	・本商品は自動二輪車用のブレーキマスターシリンダーとしてご使用ください。自動二輪車以外への使用は絶対にしないでください。 ・マスターシリンダーのピストン径は、ご使用のキャリパーやブレーキシステムに合ったサイズで必ずご使用ください。サイズを間違えると制動力が確保できず、追突や転倒、大ケガ、死亡事故などにつながる危険があります。（※純正マスターシリンダーサイズ対応表を参照ください。） ・レースなどの過酷な条件下での使用は絶対にしないでください。 ・ブレーキフルードを充填する前にレバーを頻繁に動かさないでください。
実施	・**本商品は安全にかかわる重要な部品です。取り付け作業やエア抜き作業には、高度な整備技術と知識が必要です。取り付けおよび分解整備に不備があった場合に、制動力が確保できなかったり、突然の作動不良が起き、追突や転倒、大ケガ、死亡事故などに繋がる危険があります。必ず認証工場での取り付け、および分解整備を行なってください。また認証工場以外で作業をされた場合は、道路運送車両法に基づいた対応をしてください。** ・ブレーキフルードは当社製ブレーキフルード DOT4（品番 78024／別売品）、または純正か他社製ブレーキフルード DOT4（グリコールエーテル系）をご使用ください。グリコールエーテル系以外（シリコン系など）のブレーキフルードは使用できません。 ・走行中に異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停車させ、異常箇所を必ず点検してください。異常があった場合は、商品の使用または車両の走行を中止し、認証工場や販売店へご相談してください。

⚠注意	要件を満たさず使用しますと、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
実施	・商品取り扱い時に商品の端面や商品に突起やバリなどがあり予期せぬケガや事故が発生する場合があります。取り扱いの際は必ず保護手袋を着用し、ケガには十分に注意して作業を行なってください。 ・本商品を開梱の際は、構成部品や外観の不具合、異常がないことを必ず確認ください。万一気づきの点がございましたら、ご使用前にお買い求め販売店へ速やかにご相談ください。 ・作業は周囲の安全を確保し車両の転倒やケガに十分注意して、作業を行なってください。 ・本商品の取り付けは、取付車両のメーカーより発行されている、サービスマニュアルを参考に取り付けを行なってください。 ・取り付けは各作業に適した工具をご使用ください。不適切な工具を使用すると部品の破損やケガをする可能性があります。 ・ボルトやナット類の締め付けにはトルクレンチを使用して、所定トルクまたは車両メーカー発行のサービスマニュアルで指示されたトルクで確実に締め付けてください。 ・本商品を取り付けする際は、バンジョー部のガスケットを必ず新品に交換してください。 ・本商品の装着時に、スクリーンやカウルにリザーバータンクが接触する場合は、タンクホースの交換、またはステーを曲げて調整してください。またリザーバータンクは車両と水平になるように曲げを調整してください。 ・純正ブレーキマスターシリンダーのボディにサイズの刻印があります。サイズを確認し、対応するラジアルブレーキマスターのサイズをお使いください。 ・キャリパーを交換される場合は、そのキャリパーの指定ピストン径に従ってください。 ・取付作業前に、本商品を単体で仮装着を行ない、レバーをフルストロークさせた際にコントロールスイッチなどへ接触しないことを確認してください。またハンドルを慎重に左右限界までゆっくりと動かし、カウルやタンクに接触しないことを確認してください。 ・ブレーキホースを組み付けたら、すみやかにレバーをゆっくりと握り、ブレーキホースのバンジョーとレバー部（注意ステッカーが貼られた部分）が接触しないことを確認してください。接触する状態で作業を進めるとレバー曲がりの原因となります。一度曲がったレバーの修正はできません。また、曲がったレバー（修正含む）を使用した場合、ベーパーロックやブレーキの突然のロックなどの原因となり大変危険です。レバー曲がりが発生した場合は、すみやかに新品の補修レバーへ交換してください。 ・ブレーキホースを取り付けする際は、バンジョーとレバー部（注意ステッカーが貼られた部分）が接触しないよう、バンジョーの向きに注意してください。上記のレバー曲がりの原因となります。 ・本商品は汎用品のためシリンダー形状とバンジョー取出し口の位置が純正と異なります。ブレーキホースを無理に曲げての取り付けやブレーキホースが届かない場合はブレーキホースの交換、またはブレーキホースエクステンションを使用して取り付けしてください。またブレーキホース交換の際は、バンジョーの角度や向きを装着車両に合わせて適正なブレーキホースへ交換してください。

⚠注意	要件を満たさず使用しますと、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
実施	・完全にエアが抜けるまで確実にエア抜き作業をしてください。適合サイズであってもタッチが出ない場合は、マスターやホース、キャリパーなどのブレーキシステムのどこかにエアが残っている可能性が高いです。特にキャリパー側のピストン付近やバンジョー付近のエアが抜けにくいため、エアが残りやすくなっております。エアが残ったまま使用するとブレーキが効かず、追突や転倒などの大ケガや死亡事故につながる危険があります。必ずエアを確実に抜いてください。 ・本商品を装着後は、各ケーブル類やハーネス類の取り回しを確認し、ハンドルを左右に限界までゆっくり動かし、車両に挟まらないか、無理に突っ張っていないか、どこかに引っかからないか確認してください。 ・走行前にレバーのアジャスト位置を必ず調整してください。車両によってはブレーキ液圧が十分に発生する前に、レバーがグリップやスイッチボックスに接触してしまう場合があります。レバーアジャスターの位置調整を確実に行ない、ブレーキ液圧が十分に発生し、レバーがグリップやスイッチボックスに接触しないレバー位置で必ずご使用ください。 ・レバーの位置調整は必ず走行前に行ない、アジャストダイヤルが正しい位置に来ていることを確認し走行してください。アジャストダイヤルの位置が中途半端な位置にセットされているとブレーキ操作中にレバー位置が突然動き大変危険です。 ・通常走行を行なう前に必ずブレーキシステムが正常に動作することを確認してから、慣らし運転を行なってください。慣らし運転は、今までのブレーキ性能（制動力やレバータッチなど）の違いをライダー自身に確認していただくものです。 ・本商品の装着後はブレーキフルードの漏れが無いか、消耗部品の交換が必要かなど定期的な点検を行なってください。また必要に応じて、ブレーキフルードの交換や補充を行なってください。 ・**ブレーキフルードは使用過程や放置状態でも、空気中の水分を吸収し劣化していきます。装着車両の取扱説明書にしたがい、２年ごとにブレーキフルードの交換作業を行なってください。** ・取り付け後に約 100km 走行しましたら各部を必ず点検整備し、必要に応じてネジの増し締めを行なってください。その後は約 500km 毎に同様の作業を行なってください。
接触禁止	・ブレーキフルードが皮膚に付着するとかぶれたり、肌荒れなどの症状がでる場合があります。皮膚に付着した場合は、すみやかに水で洗い流してください。 ・ブレーキフルードが目に入った場合は、直ちに作業を中止し水で十分に洗い流してください。その後は専門医の診察を必ず受けてください。 ・ブレーキフルードが塗装面等に付着すると塗装面が痛みます。万一付着した場合はすみやかに水で洗い流す、または脱脂洗浄剤などを使用して確実に取り除いてください。（脱脂洗浄剤などを使用する場合は、樹脂製部品やゴム部品に付着させないよう脱脂洗浄剤の取り扱い説明にしたがってください。）
法令違反	・本商品は使用者本人もしくは認証工場以外での取り付け作業や分解整備は行なえません。道路運送車両法に基づいた対応をしてください。 ・取付車両のメーカーより発行されているサービスマニュアルに準じた方法で定期点検を必ず行なってください。
その他	・本商品を装着したことによる物的損害や人的損害などの保証は一切お受けできません。また、商品保証は本商品のみが対象になります。 ・本商品を ABS 付車両に装着した場合、ABS 作動時のレバーへの伝わり方が純正ブレーキマスター使用時から変化します。 ・本商品は、外径Φ22.2mmのハンドルバー専用です。 ・適合するピストンサイズであっても構造上の違いから交換前と同じブレーキタッチにならない場合があります。推奨適合サイズはあくまでも当社がお奨めしているものです。個人差、組合せによっては柔らかいレバータッチと感じる場合があります。 ・純正などのゴムブレーキホースでは、ホースが膨張し正常な液圧をキャリパーまで伝えきれない場合があります。その場合はステンレスメッシュホースへの交換をオススメします。 ・キャリパー側ピストンの動きが悪い場合、レバータッチに不具合がでる場合があります。キャリパーのメンテナンスを行ない、キャリパーピストンの動きを確認してください。 ・マスターシリンダー径が適合した場合でも、取り付けを保証するものではありません。 ・マスターシリンダーのボディやレバーが純正マスターシリンダーに比べて大きく変わるため、コントロールスイッチなどのハンドル周辺部品やフロントカウル（スクリーン含む）などに接触する場合があります。作業前に仮装着を行ない、ハンドルを左右に限界までゆっくりと慎重に動かし、接触などが無いか確認し、各部位置調整を行なってください。（コントロールスチッチの位置調整には、ハンドルへの穴あけ加工が必要となる場合があります。）またブレーキホースをダブルで組み込んだ場合に、バンジョーやバンジョーボルトが車両に接触しないか確認してください。**これらの接触が改善されない場合は使用できません。** ・スロットルワイヤーが下から出るスイッチボックスを採用した車両の場合、スロットルワイヤーとバンジョーボルトが接触しスイッチボックスが破損する可能性があります。市販品のハイスロキットとそれに合わせたスイッチボックスに交換が必要となる場合があります。 ・本商品はアルミ素材を使用した商品になります。ご使用の環境や経年変化、使用損耗により素材劣化（アルマイト落ちやサビ含む）が、どうしても早期から進行する場合があります。 ・本商品の表面仕上げは純正部品と色目が合いません。あらかじめ、ご了承ください。 ・本商品は素材や製造方法により製品個体差があります。表面処理の色目や小キズなど程度の差がございます。 ・本商品を取り付けた場合、車両側の取り付け面や、その周辺にキズが付く可能性があります。 ・本商品の取り付けには一部の純正部品を使用します。取り外しの際には損傷や紛失に十分注意してください。 ・車種によっては車両側のブレーキスイッチハーネスの加工や延長が必要になります。 ・バンジョーボルトのサイズは M10XP1.25 です。 ・ミラー取り付け部は、M10XP1.25 の正ネジ（右ネジ）ミラー対応です。ＹＡＭＡＨＡ車に採用されている逆ネジ（左ネジ）タイプの純正ミラーは取り付けできません。市販品のアダプターまたは正ネジのバックミラーなどを別途お買い求めください。 ・リザーバータンク一体型のマスターシリンダーと比べてリザーバータンクの位置が高く、記載変更を指示される場合があります。その際には検査官の指示に従ってください。 ・補修部品は当社指定の補修部品を必ずご使用ください。 ・本商品、または本書内でご紹介した商品は予告なしに価格や仕様を変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

マスターシリンダー対応表

品番	ピストンサイズ	対応マスターサイズ	ボディ／レバー色	レバー	タンク
39984	Φ15.9mm（5／8 インチ）	横型１／２インチ＆11mm相当に対応	ブラック／クリア	ショートレバー	スモーク
39985			ブラック／ブラック		

商品内容

NO	パーツ名	サイズ(mm)	数量	NO	パーツ名	サイズ(mm)	数量
①	マスターシリンダーASSY		1	⑤	キャップボルト（シルバー）	M6×15	1
②	ミラーホルダークランプ	ミラー取付穴(M10×P1.25)	1	⑥	ゆるみ止めナット（シルバー）	M6	1
③	タンクステー（シルバー）		1	⑦	ボタンボルト（シルバー）	M10×15×P1.25	1
④	フランジボルト（ブラック）	M6×20	2	⑧	タンクホース		1

取付方法

【作業前の注意事項】
- 純正部品の取り外しや取り付けについては、各メーカー発行のサービスマニュアルに従い、正しく行なってください。
- 作業を始める前に周囲の安全を確保し、車両を安定させた状態で転倒やケガなどに十分注意して作業してください。

■バンジョーフィッティングの注意

●ラジアルブレーキマスターシリンダーは、純正などの横型ブレーキマスターシリンダーと比べ、ブレーキホース取り出しの位置や、角度が異なるため、[ブレーキホースがハンドル（ハンドル周辺パーツ）、フロントフォークなどに接触]、[ブレーキレバーとバンジョーフィッティングと接触]などの症状が発生するため、ほとんどの場合ブレーキホースの交換が必要となります。取り付け車両のハンドル形状と下記の記載事項を参考にブレーキホースの長さと適正な角度のバンジョーフィッティングをお選びください。

●純正などのブレーキホースをご使用される場合は、当社製ブレーキホースエクステンション（別売品）を併せてご使用ください。

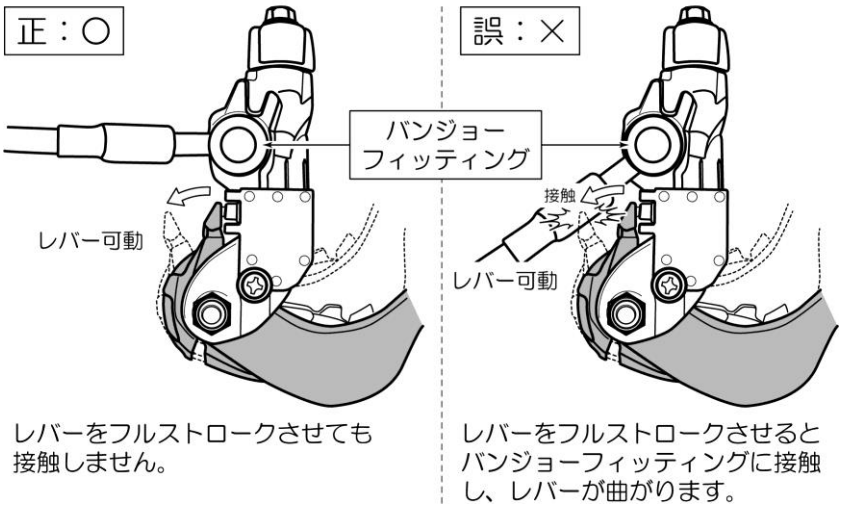
※無理に曲げたブレーキホースや短いブレーキホースでの走行は大変危険です。車両に合わせて適切なバンジョーフィッティングの角度とホース長を選択してください。

1.図Ａを参考に、バンジョーフィッティングの向きが「正：○」方向に来るように仮組みしてください。
※図Ａは下側から見た取り付け図です。

2.軽い力で慎重にレバーをゆっくりと握り、図Ｂのようなレバーの接触が無いことを確認し、バンジョーボルトを規定トルクで締め付け、バンジョーフィッティングを確実に固定してください。

※.バンジョーボルト：M10XP1.25
［締付トルク：25～30N･m］

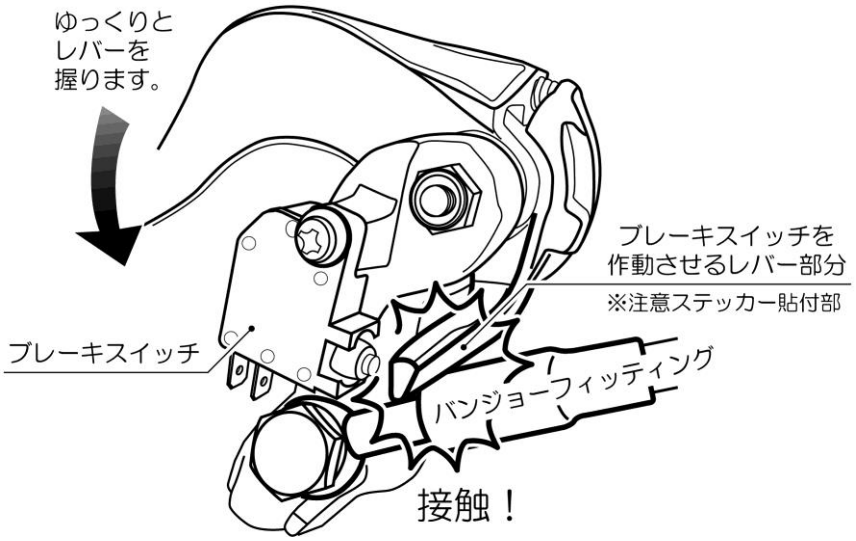
図A「※下側から見たイラスト」



3.図Aの「誤：X」方向にバンジョーフィッティングを取り付けると図Bのようにレバー操作の際にレバー部（注意ステッカーの貼付部）とバンジョーフィッティングが接触し、そのまま握り込みますと図Cの「誤：X」のようにレバーが内側へ変形します。

4.レバーが図Cの「誤：X」の状態で使用すると、レバーが正規の位置まで戻りません。そのため「エアが抜けない」や「ブレーキの引きずりや走行中にブレーキがロックする」、「ベーパーロック現象が発生する」などの原因となり、転倒や追突、重大な事故、大ケガにつながります。

図B「※下側から見たイラスト」



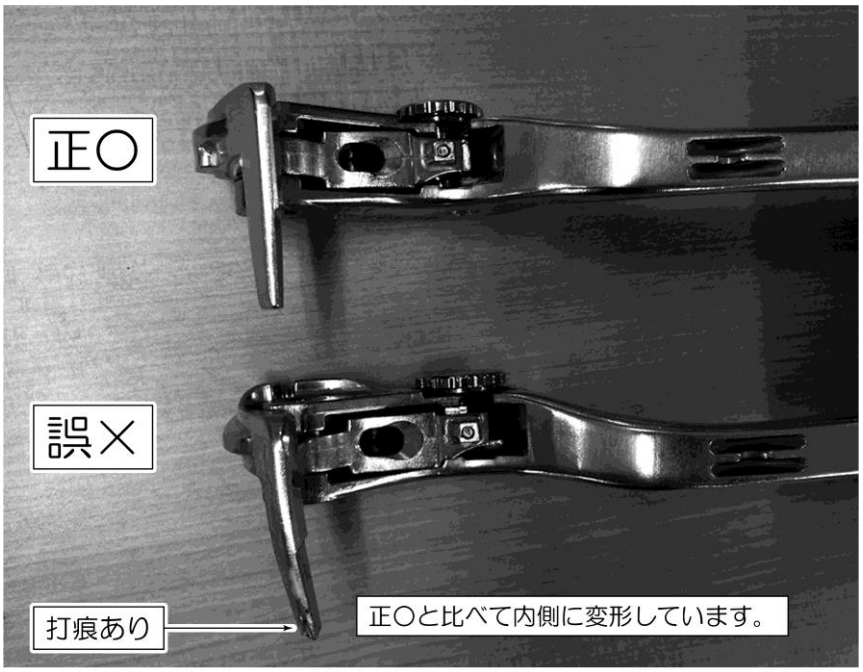
⚠注意

取付時のブレーキレバーとバンジョーフィッティングの接触は、ブレーキレバーの変形を容易に引き起こします。ブレーキレバーに打痕のある場合は外観上に問題が無くともブレーキレバーは変形しています。一度レバーを曲げてしまうと修正はできません。レバー曲りが発生した場合、すみやかに新品の補修レバーへ交換してください。

（ブレーキレバーの曲りや変形は保証対象外です。）

またレバーを操作しても、図Bの様に接触がないよう、バンジョーフィッティングの取り付けは確実に行なってください。

図C「※レバー単体の比較イラスト」



「誤×」のレバーでマスターシリンダーが車両に装着されていると、正常に戻っているように見えます。しかし実際は正常な位置まで戻っていません。

取付方法

※全ての作業は、道路運送車両法に基づいた対応を行なってください。
※取り付け作業を始める前に仮装着を行ない、マスターシリンダーボディやレバー、タンクなどが車両へ接触しないことを必ず確認してください。

1．純正ブレーキマスターシリンダー内やブレーキホース内のフルードを抜いてください。

2．純正ブレーキマスターシリンダーからミラーとブレーキスイッチハーネスの接続を外します。

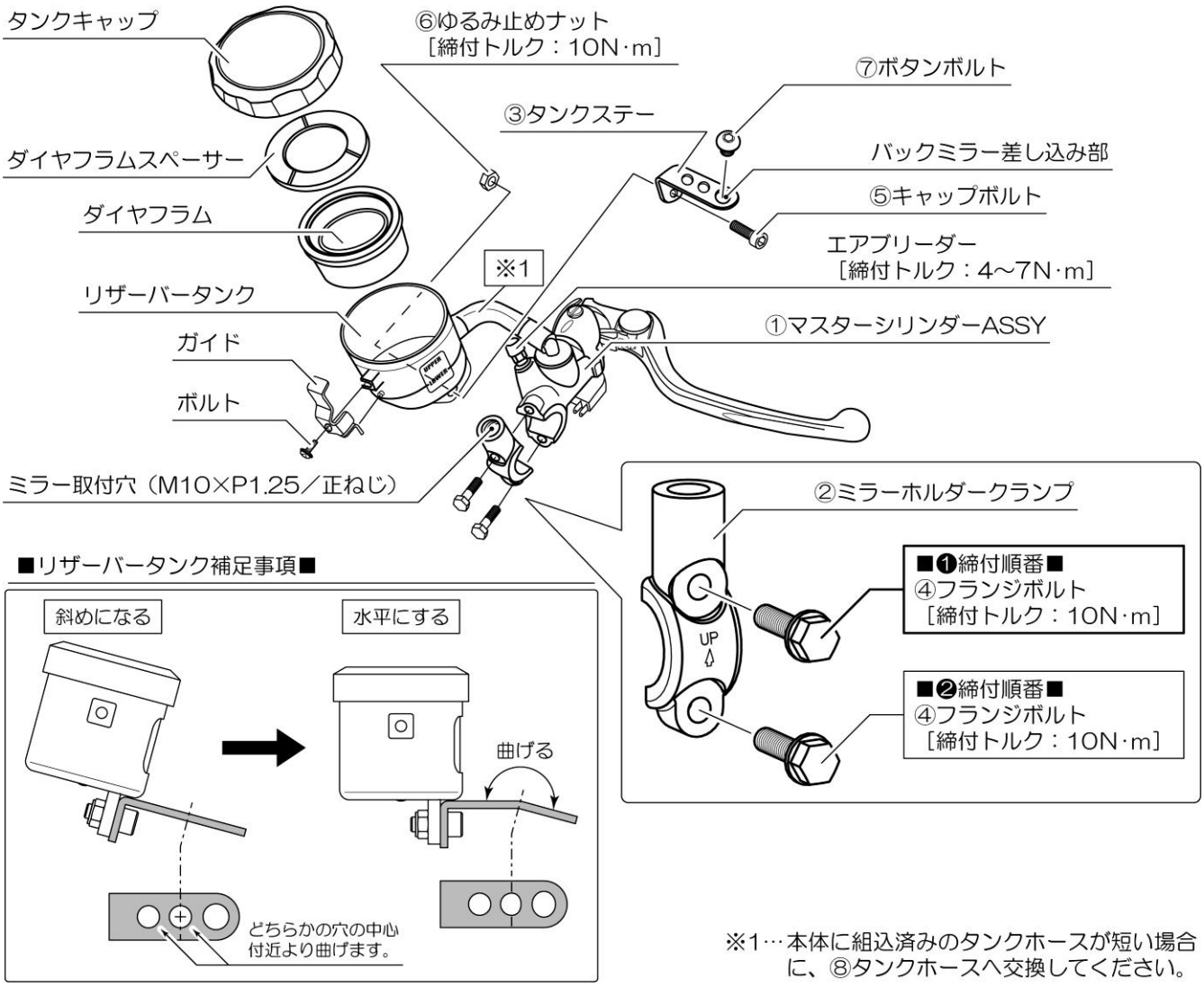
3．純正ブレーキマスターシリンダーからバンジョーボルトとガスケットを外し、ブレーキホースを外します。

4．純正ブレーキマスターシリンダーの取り付けボルトを外し、車体から取り外します。
※純正ブレーキマスターシリンダーのフルードは必ず抜いてから保管してください。

5．①マスターシリンダーASSY を②ミラーホルダークランプ、④フランジボルト（M6×20）でハンドルバーに取り付けし、ブレーキスイッチハーネスを接続します。
※②ミラーホルダークランプの上側（UP▲）を先に④フランジボルトで［締付トルク：10N･m］で締め付けます。次に角度を調整し、その後に下側を同様に④フランジボルトで締め付けます。
※上下均等に締め付けると、ミラーホルダークランプが締まりきらなかったり、折れてしまう場合があります。またオーバートルク（締めすぎ）による②ミラーホルダークランプの折れなどの破損は保証対象外です。

6．⑤キャップボルト（M6X15）、⑥ゆるみ止めナット（M6）を使用して、③タンクステーをリザーバータンクへ取り付けます。

7．②ミラーホルダークランプに③タンクステーを挟んで、バックミラー、または⑦ボタンボルトを取り付けます。



※1…本体に組込済みのタンクホースが短い場合に、⑧タンクホースへ交換してください。

8．新品のガスケットとバンジョーボルト（M10XP1.25）を使用し、適正なバンジョーフィッティングのブレーキホースを取り付けます。
※バンジョーボルト［締付トルク：25～30N･m］

9．リザーバータンクから、ボルトを外しガイドを取り外します。タンクキャップ、ダイヤフラムスペーサー、ダイヤフラム等を取り外し、リザーバータンクにブレーキフルードを注ぎエア抜きを行ないます。レバーを何度かストロークさせたりして、①マスターシリンダーＡＳＳＹ内のエアをリザーバータンク側へ逃がしてください。
※当社製ブレーキフルード（78024）を使用するか、純正または他社製ブレーキフルード DOT4（グリコールエーテル系）をご使用ください。グリコールエーテル系以外（シリコン系など）のブレーキフルードは使用できませんのでご注意ください。

１０．レバーに多少タッチが出るまで行ない、取付車両のサービスマニュアルに従ってキャリパー側よりエア抜き作業を行ないます。メーカー指定のフルード交換ツールを使用いただくか、当社別売品：ブレーキフルード交換ツール〔品番 71123〕やブレーキエア抜きセット〔品番 61825〕等のご使用をお勧めします。その後①マスターシリンダーASSY のエアブリーダー部からも同様にエア抜き作業を行なってください。（レバータッチが確実に出るまでこの作業を繰り返します。）

※エアブリーダー［締付トルク：4～7N･m］

※エアが抜けにくい場合は、リザーバータンクから抜けやすい様に①マスターシリンダーASSY の取り付け角度を変更することで、抜けやすくなる場合があります。

※上記作業でもエアが完全に抜けきらない場合はキャリパーに直接ブレーキフルードを押し込む、又は吸い出すタイプの特殊工具を使用し、エアを完全に抜いてください。

１２．①マスターシリンダーASSY、キャリパー、またその他の場所でブレーキフルードが付着している部分をブレーキクリーナーなどで脱脂してください。また、エアブリーダーねじ穴部にもブレーキフルードが残りやすいためマスターシリンダー側とキャリパー側を入念に脱脂をしてください。（ブレーキフルードは、塗装を傷める恐れがありますので、完全に取り除いてください。ブレーキフルードが残りやすい部分は、入念に脱脂をしてください。）

※エアブリーダーねじ穴部にブレーキフルードが残っている場合、ブレーキフルードがにじみ出てくる症状が発生します。

１３．ブレーキ操作を行ない、ブレーキランプが点灯する事を確認します。

１４．最後にブレーキレバーを強く握った状態で、レバー位置が変化しない事、ブレーキホース、バンジョー取付部分等からフルード漏れ等のない事、ハンドルを左右に限界まで動かしそれぞれブレーキ操作を行ない不具合が無いことをご確認してください。

１５．各部を点検し、異常が無ければ作業は終了です。

⚠注意

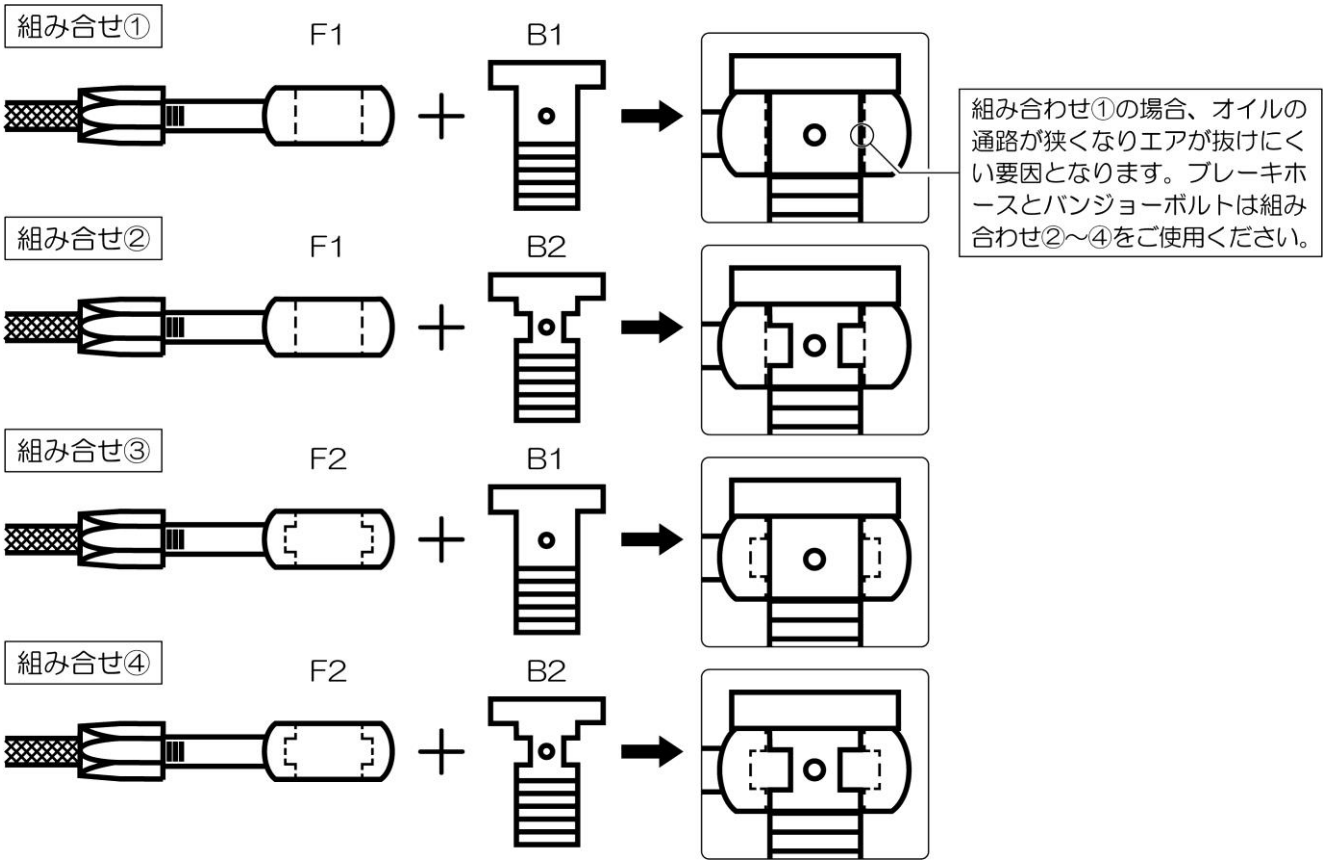
エア抜き作業は、ブレーキシステム全体の各パーツの組み合わせや取付角度、取付位置などの状況によってエアが抜けにくいことがあります。またブレーキキャリパーのピストンの動きによって左右されることもあるため、ブレーキキャリパーのメンテナンスが必要になる場合もございます。特に6POTキャリパーなどピストンの数が多くなるほど、構造的にエアが抜けにくい傾向になります。ブレーキシステムの構造とエア抜き作業の手順を理解したうえで作業を行なうことで手間と時間はかかりますが、必ずエアは抜けます。また、一連の作業でブレーキフルードを大量に使用する場合も考えられますが、安全のためにも必要不可欠な作業のため手間を惜しまず確実に作業を行なってください。

トラブルシューティング

①エアが抜けない

- **マスターシリンダーは機能していますか？**
  ブレーキホース未接続の状態で、マスターシリンダーASSY のリザーバータンクにブレーキフルードを入れ、バンジョーボルトの取付部を指で押さえます。レバーを握るときは指を離し、穴を開放します。レバーを戻すときは指で穴をふさぎます。エア抜きと同じ作業を繰り返し、ブレーキフルードが出てこなければマスターシリンダー本体に問題が有ります。

- **ブレーキホースの取りまわし、オイルラインは正常に通っていますか？**
  バンジョーボルトとブレーキホースの組み合わせにも注意が必要です。（下図参照）
  ブレーキ（クラッチ）ホースとバンジョーボルトなどのオイルラインが正常に通っていないと、ブレーキフルードが行き渡りにくく、エアも抜けにくい状態となります。また、長すぎるホースを使用していたり、ホースが無理に曲がっているなども点検し、ブレーキホースの取り回しを見直してください。



- **エアブリーダーボルトが錆びたり、変形したりしてオイル通路をふさいでいませんか？**
  キャリパー側のエアブリーダーを取り外して確認してください。オイルの通路をふさぐ原因となるエアブリーダーの錆び、オーバートルクによる変形がみられる場合は、直ちに交換してください。
  ※エアブリーダーの締付トルク：4～7N･m

②マスターシリンダーASSY のエアブリーダー部のフルードのにじみ。

- **オーバートルクで内部がつぶれていませんか？**
  エアブリーダー締め付けトルク：4～7N・mです。これ以上に締付を行なうとエアブリーダーの先端や、マスターシリンダーASSY の取り付け部が変形し、フルード漏れの原因となります。エアブリーダーを取り外し、点検してください。

- **フルードの洗浄作業は確実に行ないましたか？**
  マスターシリンダーの構造上、エアブリーダーの内部やその周りのネジ山部にはフルードが残りやすくなっております。エアブリーダーを締め付けた状態で、エアーツール等を使用しエアーを吹き込み、エアブリーダー内部やネジ山部に残ったフルードを入念に取り除いてください。（キャリパー側も同様です。）
  ※洗浄が不十分な場合、時間がたつとエアブリーダー取り付け部より、フルードがにじむことがあります。

③レバータッチがかたい、またはやわらかい。

・推奨のピストンサイズをご使用ですか？
Φ19 は横型５／８インチ、Φ17 は横型 14mm、Φ15.8（５／８インチ）は横型１／２インチ＆11mmに相当します。装着されていたマスターシリンダーと推奨ピストンサイズが異なる場合、ラジアルブレーキマスターシリンダーの性能が発揮できないためご使用できません。（保証対象外）
装着されていたマスターシリンダーに対し、ピストンサイズが大きい物を装着した場合、レバータッチがかたくなります。またピストンサイズが小さい物を装着した場合は、レバータッチがやわらかくなります。交換前に装着されていたマスターシリンダーとラジアルマスターシリンダーのピストンサイズを比較してください。**（ボディの裏側に刻印があります。Φ19 は３／４の刻印、Φ17 は 11／16、Φ15.8 は５／８の刻印です。）**

例１. 純正などの装着されていたマスターシリンダーより、ピストン径が大きいラジアルブレーキマスターを装着した場合。
純正 11mm　＜　ラジアルブレーキマスターφ17（横型 14mm推奨）
レバーの稼働量が少なく、レバータッチが固くガチガチしたブレーキフィーリングとなります。ブレーキを作動させられるがレバーが十分ににぎれず、必要な制動力を得られない可能性があります。また少しのレバー操作で制動力が急激に高まり、ロックしてしまう場合があります。
例 2. 純正などの装着されていたマスターシリンダーより、ピストン径が小さいラジアルブレーキマスターを装着した場合。
純正 5／8in（15.8mm）　＞　ラジアルブレーキマスターφ17（横型 14mm推奨）
レバーの稼働量が多きくなりレバータッチがやわらかくなります。エア抜き完了後もエアが混入している感覚が残るフィーリングです。ブレーキを作動させられるが、十分な制動力を得られる前にレバーがグリップタッチしてしまいそれ以上の制動力を得られない可能性があります。

※車両個々の状態や組み合わせて使用する一連のブレーキシステムによっては、上記の例 1／2 以外の症状が発生する可能性があります。

・キャリパー側の推奨サイズを選んでいますか？
キャリパーを交換されている場合、交換したキャリパー側の推奨ピストンサイズをお選びください。

・ピストンサイズ違いのブレーキマスターが装着されていませんでしたか？
中古で車両をご購入された場合、キャリパーは純正であっても、ブレーキマスターが純正とは異なるサイズの物に交換されていた、またはキャリパーが交換されていたという場合もあります。キャリパーまたはブレーキマスターがお取り付け車両の純正部品かを確認してください。

・キャリパーのピストンは正常に作動していますか？
エア抜き終了後もレバータッチがやわらかい場合、キャリパー側のピストンが正常に動いていない場合があります。横型マスターでは感じにくかったキャリパー側の不具合も顕著にレバータッチに影響してくる場合があるため、キャリパー側のメンテナンスが併せて必要となる場合があります。

・ブレーキホースはゴム製ですか？
純正等のゴム製ブレーキホースは、ブレーキホース自体が膨張し、発生した液圧を逃がしてしまう症状が出る場合があります。正常な液圧をキャリパーまで伝えきれないため、レバータッチがやわらかく感じやすくなります。ステンレスメッシュホースへの交換をおすすめいたします。

・エアーの混入はありませんか？
ブレーキ関係の交換の際は、交換したブレーキマスターASSY 以外の部分にもエアーが混入してしまいます。ホース等の連結部、キャリパーピストン部等ブレーキシステム全体の状態を見直し、確実にエア抜き作業を行なってください。

・レバー形状が横型マスターと大きく異なります。
レバー形状と、レバー比が横型マスターと異なるため、レバータッチは若干やわらかく感じる場合があります。

・レバーがグリップタッチしてしまう。
レバー形状が横型と大きく異なるため、車種によってはグリップタッチする症状が出る場合があります。レバー位置調整を行ない、グリップタッチしない位置でご使用ください。またはエアー混入等の上記一連の項目を再度ご確認ください。

④ブレーキの引きずり。

・リザーバータンク内のフルードがＵＰＰＥＲレベルを超えていませんか？
フルードの入れすぎで、レバーを戻した状態でもフルードがリザーバータンク内に戻りきらない場合、キャリパー側のピストンもセット位置まで戻りません。リザーバータンク内のフルード量を確認してください。

・マスターシリンダー以外のブレーキ関連部品は正常ですか？
キャリパー側のピストンの動きが悪い。ブレーキパッドの摩耗状態。ディスクローターの変形等が考えられます。ブレーキシステム全体を点検してください。

・レバーの曲がりはありませんか？（本取扱説明書内Ｐ3～4 に注意事項記載）
本取扱説明書（Ｐ3～4）記載のレバー曲がり、またはレバーに打痕がある場合、ブレーキレバーが完全に戻りきらず、ピストンを少し押している状態となります。（Ｐ3～4）の注意事項をご確認いただきレバーを点検してください。

⑤走行時レバー操作無しでブレーキが効いてしまう。

- レバーの曲がりはありませんか？（本取扱説明書内Ｐ3～4 に注意事項記載）
  本取扱説明書（Ｐ3～4）記載のレバー曲がり、またはレバーに打痕がある場合、ブレーキレバーが完全に戻りきらず、ピストンを少し押している状態となります。この状態で走行しブレーキホース内に熱が発生し膨張したフルードがタンク内に戻れずキャリパーピストンを作動させてしまいます。レバーを当社指定補修部品へ交換してください。

- レバーを交換していませんか？
  当社指定補修部品またはオプション品以外のレバーを使用している場合、レバー曲がりがなくても上記と同様な症状が発生する場合があります。当社指定補修部品のレバーには NISSIN の刻印があります。ご使用のレバーをご確認ください。

⑥ブレーキランプが作動しない。

- ブレーキスイッチのハーネスは接続していますか？
  付属のブレーキスイッチは、２極の平端子です。車種によっては接続に加工が必要となる場合があります。ハーネス接続を確認してください。接続にハーネス加工を行なった場合、加工部分の導通も合わせてご確認ください。ハーネス類に異常が無ければスイッチ、またはテールランプのバルブ等を点検し、異常があれば交換してください。

⑦レバー操作中にレバー位置が変わってしまう。

- アジャスターのダイヤル調整は確実に行なえていますか？
  レバーを前方向にかるく動かし、位置調整のアジャスターを回転させレバー位置を調整します。この時アジャスター側の接触面とレバー側の接触面が付いている事を確認してください。調整したアジャスターの位置を示す数字がレバー側の▲位置に来るようにしてください。アジャスターとレバーの接触面が面接触していない不十分な調整を行なった場合、レバー操作時にアジャスターがいずれかの方向に回り、レバー位置が動いてしまいます。

■商品保証について

商品保証とは、通常のご使用において材料または製造上の不具合に起因する故障等が起きた場合、保証規定の範囲において無償修理または交換をお約束するものです。

1. 保証期間は使用回数に関わらず、ご購入日から1年間となります。2. 保証を受ける場合には、お買い上げ日が証明できる書面（レシートなど）が必要となります。
3. 下記のアドレス（またはQRコード）より、保証規定の詳細をご一読の上、ご理解・ご承諾ください。

デイトナ保証規定

https://www.daytona.co.jp/warranty/index.php

※保証の対象は、新品かつ正規販売店でのご購入品に限ります。個人売買や中古品、インターネットオークションでの購入品は保証の対象外となります。
※保証を受けるご連絡を以って、保証規定にご同意いただいたものとみなします。

■保証修理の受付について

お買い上げ日が証明できる書面をご用意の上、購入店もしくは当社までご連絡ください。

インターネットお問合せ

https://www.daytona.co.jp/contact/form.php

株式会社デイトナ
東証スタンダード上場
〒437-0226 静岡県周智郡森町一宮4805
https://www.daytona.co.jp

転載禁止 本取扱説明書の内容の一部、または全ての無断転載を禁止